

GAKUJO REPORT

あさがくナビ

朝日学情ナビ 2025

2025年卒学生対象 就職活動意識調査レポート

2023年10月発表



つくるのは、未来の選択肢

学情
GAKUJO
東証プライム上場



【調査概要】

- 調査対象：あさがくナビ2025登録会員（2025年3月卒業予定学生）
- 調査期間：2023年9月11日～9月27日
- 有効回答数：514件
- 調査方法：Web上のアンケート
- 昨年度比較データ
調査対象：あさがくナビ2024登録会員、調査期間：2022年8月24日～8月31日、有効回答数：531件

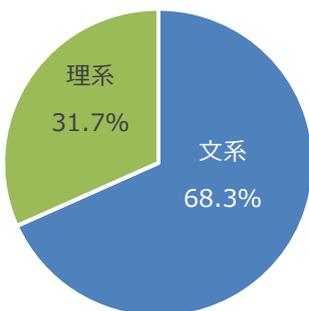
※レポート内の各項目の数値は小数点第二位を四捨五入し小数点第一位までを表記しているため、
択一式の回答の合計が100.0%とならない場合があります。

トピックス

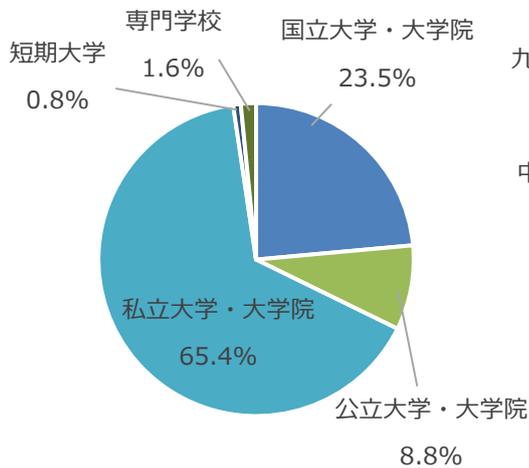
- ◆ インターンシップやオープン・カンパニーに「参加した」学生は78.0%。参加形式は「対面・オンラインの両方」が70.3%に達し、昨年同時期比+24.8ポイントの大きな伸び。
- ◆ インターンシップ等の応募社数は概算平均で9.4社。参加社数は対面形式=3.4社、オンライン形式=4.7社（各概算平均）。
- ◆ インターンシップおよびオープン・カンパニーに参加し「期待以上のものが得られた」という声はインターンシップ=67.7%、オープン・カンパニー=46.0%。インターンシップが20ポイント以上上回る。
- ◆ インターンシップとオープン・カンパニーの今後の参加希望率（「ぜひ参加したい」+「参加したい」の合計）は、インターンシップ=76.7%、オープン・カンパニー=91.3%。短期間で気軽に参加できるオープン・カンパニーを好む傾向がみられる。
- ◆ 内定を得たい時期は「今の学年が終わるまで（来年3月末頃まで）」が27.9%で最多。昨年調査よりも希望の時期が早まっており、早期選考などを念頭に、最終学年に進級する前に内定を得たい、得られるのではと期待が寄せられている。

回答者属性

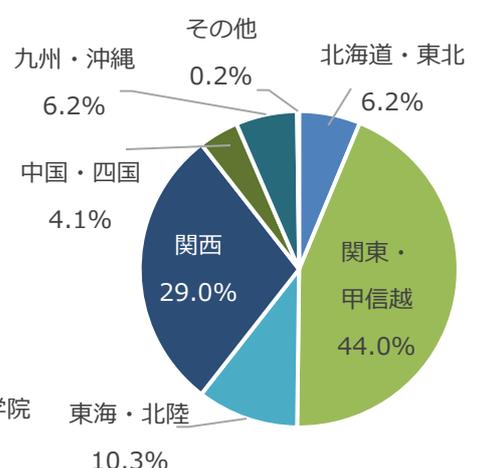
■ 文理



■ 学校区分



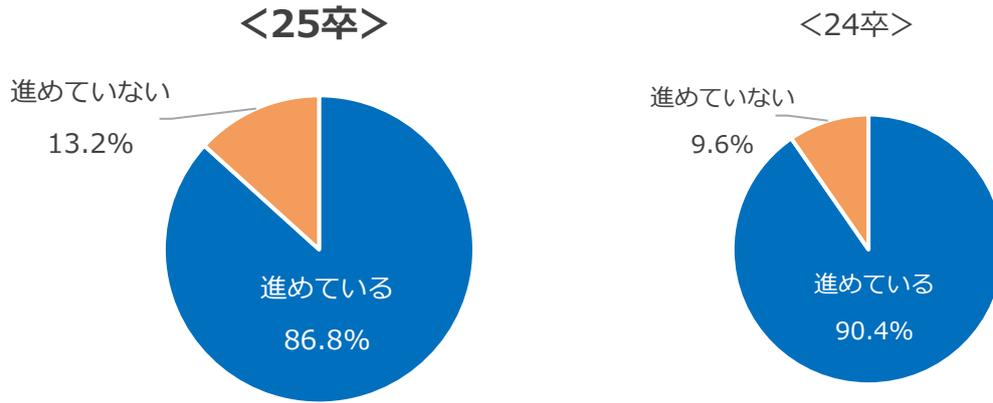
■ 現住所の地域



I 就職活動の準備について

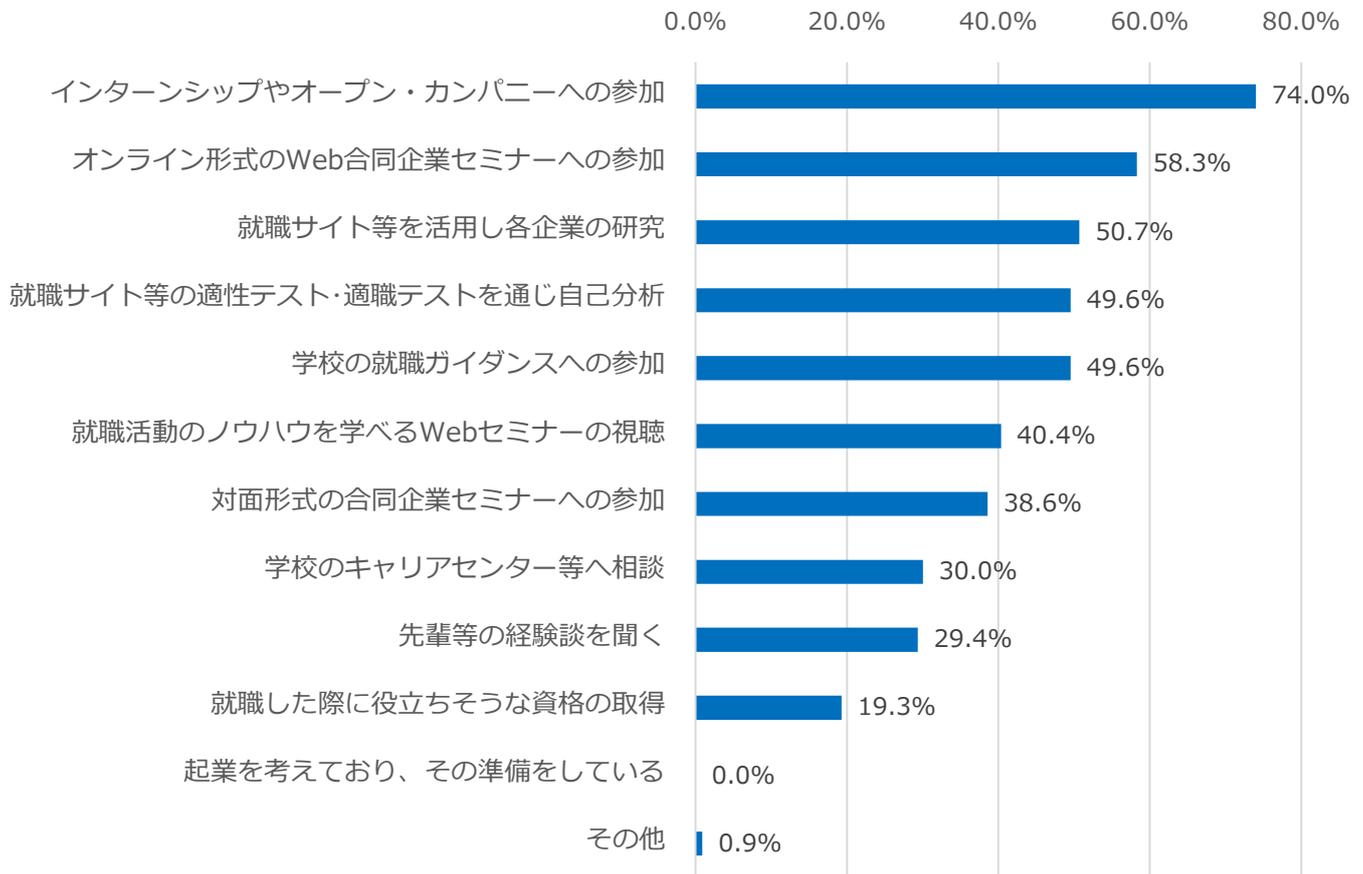
Q. 就職活動の準備（インターンシップやオープン・カンパニーへの参加、自己分析、業界研究など）を進めていますか？

n=514



Q. 具体的にどのような準備を進めていますか？（複数回答可）

n=446



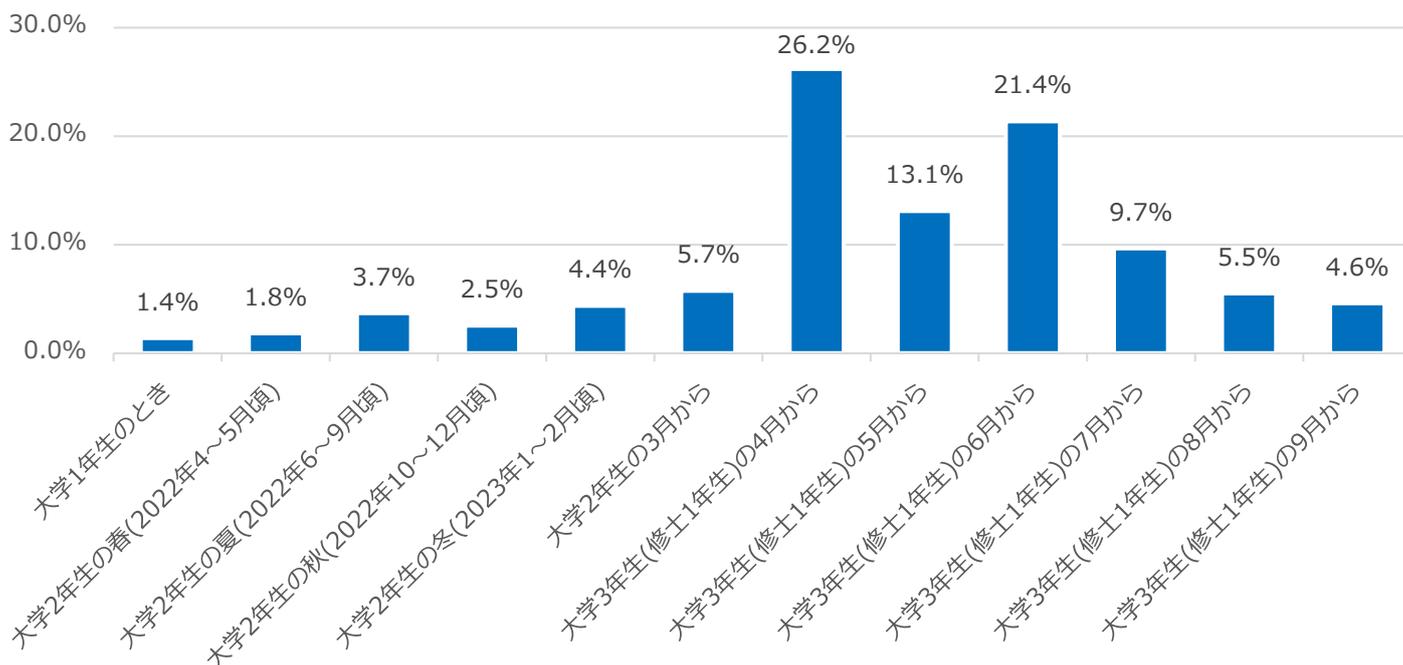
就職活動の準備について、「進めている」学生は86.8%。昨年同時期比微減ではあるが、概ね9割の学生が準備を進めている。

具体的な準備の内容は「インターンシップやオープン・カンパニーへの参加」が74.0%で最多。「オンライン形式のWeb合同企業セミナーへの参加」（58.3%）、「就職サイト等を活用し各企業の研究」（50.7%）と続く。なお、回答人数446人に対し選択された項目数は1965個で、1人の学生が平均で4つ以上の取り組みをしており、様々な手段で準備を進めていることがうかがえる。

I 就職活動の準備について

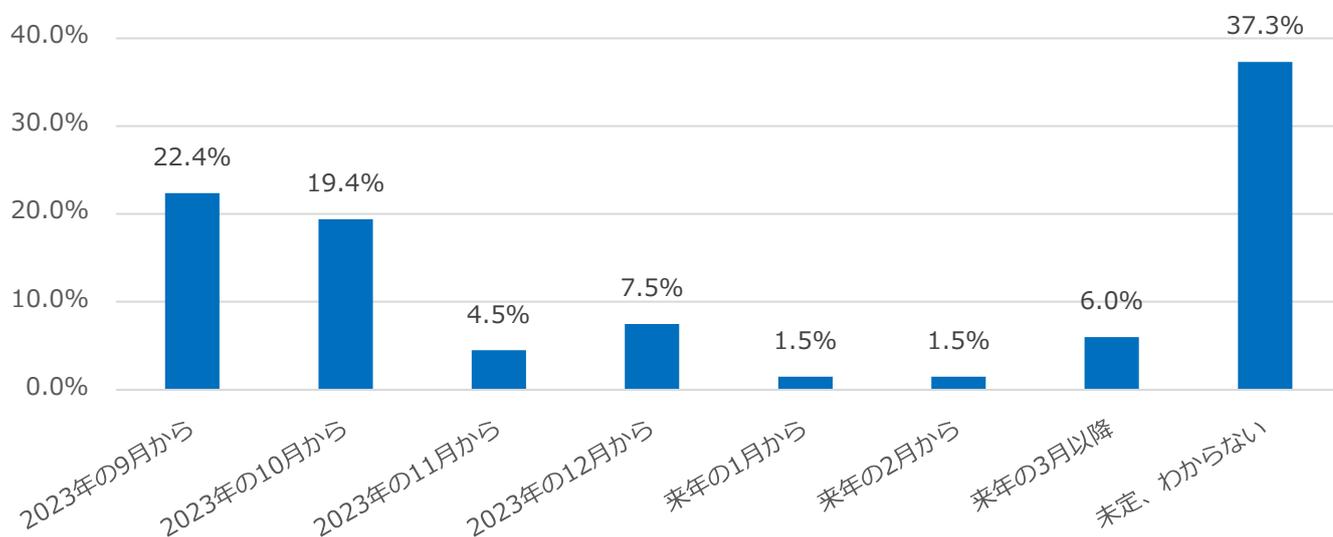
Q. 就職活動の準備はいつからスタートしましたか？

n=435



Q. 就職活動の準備はいつからスタートする予定ですか？ (就職活動の準備をしていない学生への質問)

n=68



就職活動の準備を始めた時期は「大学3年生（修士1年生）の4月から」（26.2%）が最多。「大学3年生（修士1年生）の6月から」（21.4%）がそれに次ぐ。大学3年生になってから就職活動を意識し始め、具体的な行動に移す学生が多いようだ。一方で1~2年生のうち準備を始めた学生も2割近くに上る。

就職活動の準備をしていない学生が、いつから準備をするかは「未定、わからない」が37.3%で最多。一方で「2023年の9月から」「同10月から」の合計が4割を超え、半数近い学生は近いうちにスタートしようと考えているようだ。

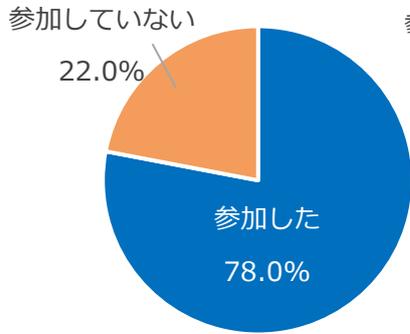
Ⅱ インターンシップ、オープン・カンパニーについて

※以下、インターンシップ、オープン・カンパニーを総称して「インターンシップ等」と表記

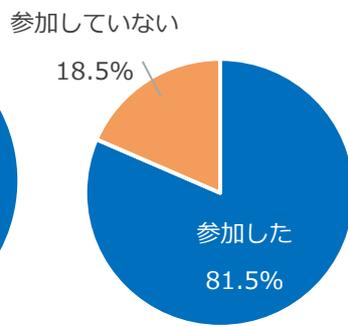
Q. インターンシップ等に参加しましたか？

n=514

<25卒>

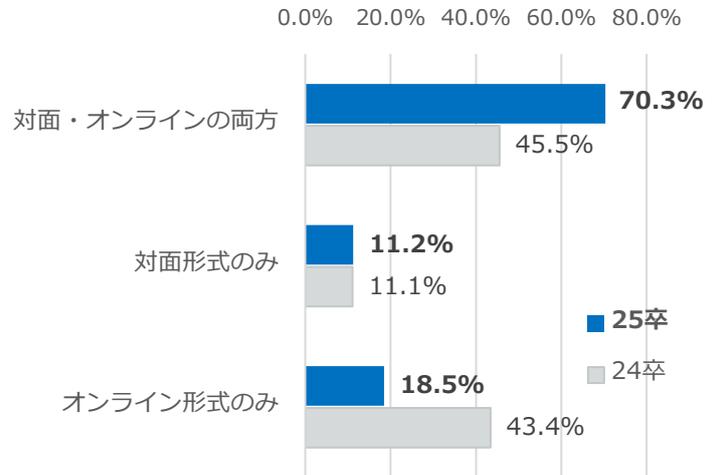


<24卒>



Q. 参加したインターンシップ等の形式を教えてください。

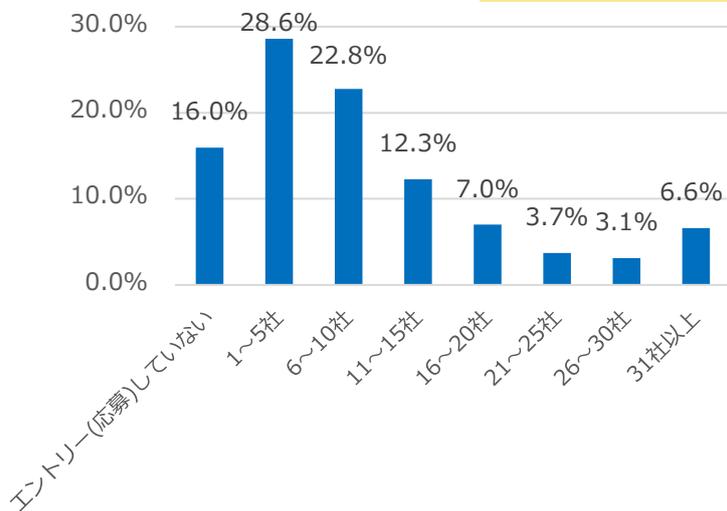
n=401



Q. インターンシップ等について、エントリー（応募）した社数を教えてください。

n=514

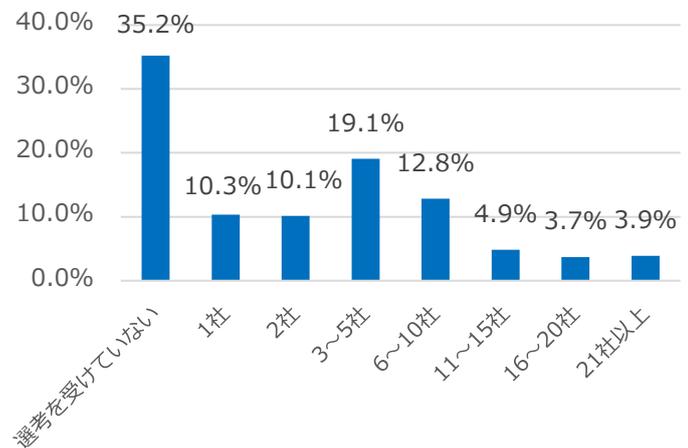
【概算平均】9.4社



Q. インターンシップ等について、選考（エントリーシートやWebテスト、面接など）を受けた社数を教えてください。

n=514

【概算平均】4.3社



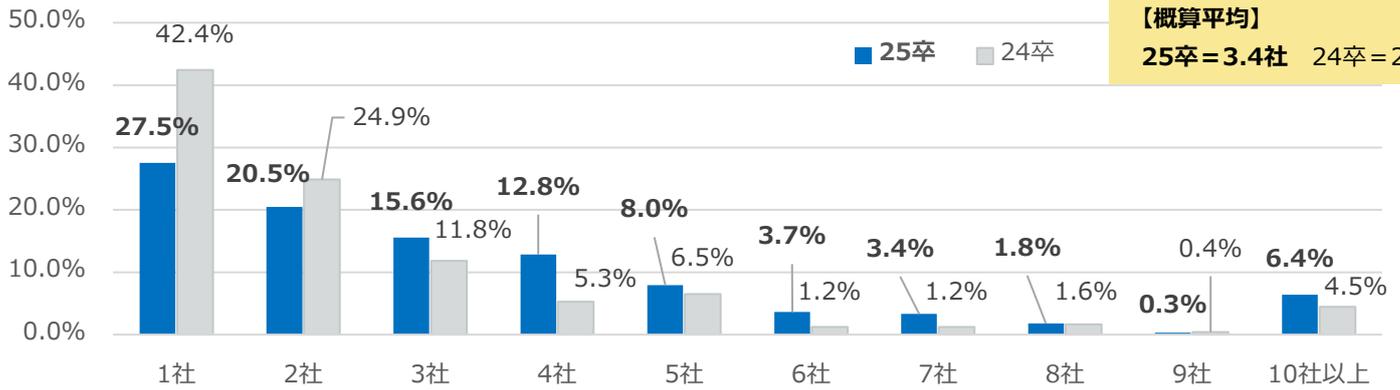
インターンシップ、オープン・カンパニー（以下、「インターンシップ等」と表記）の参加状況について、「参加した」が78.0%と約8割を占める。参加形式は「対面・オンラインの両方」が70.3%と、昨年同時期比24.8ポイント増と大きな伸び。一方で「オンライン形式のみ」は同24.9ポイント減の18.5%に。コロナ禍による制限も大幅に緩和され、オンラインに加え、対面形式のインターンシップ等の実施企業の増加が影響したと言える。

インターンシップ等のエントリー社数は「1~5社」（28.6%）が最多、「6~10社」（22.8%）がそれに次ぐ。概算平均は9.4社。選考を受けた社数は「受けていない」（35.2%）が最多だが、裏を返せば3人に2人は選考に臨んでいる。概算平均は4.3社であった。

II インターンシップ、オープン・カンパニーについて

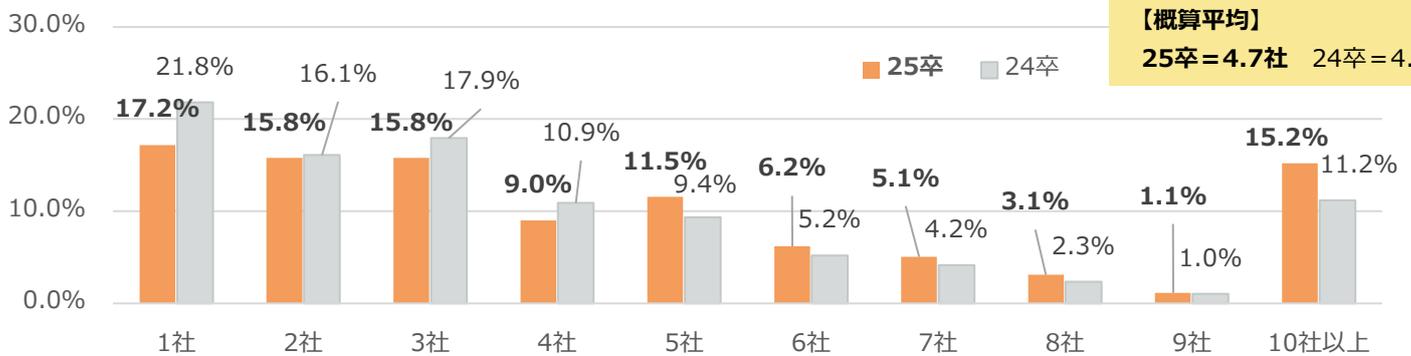
Q. 【対面形式】のインターンシップ等の参加社数を教えてください。

n=327



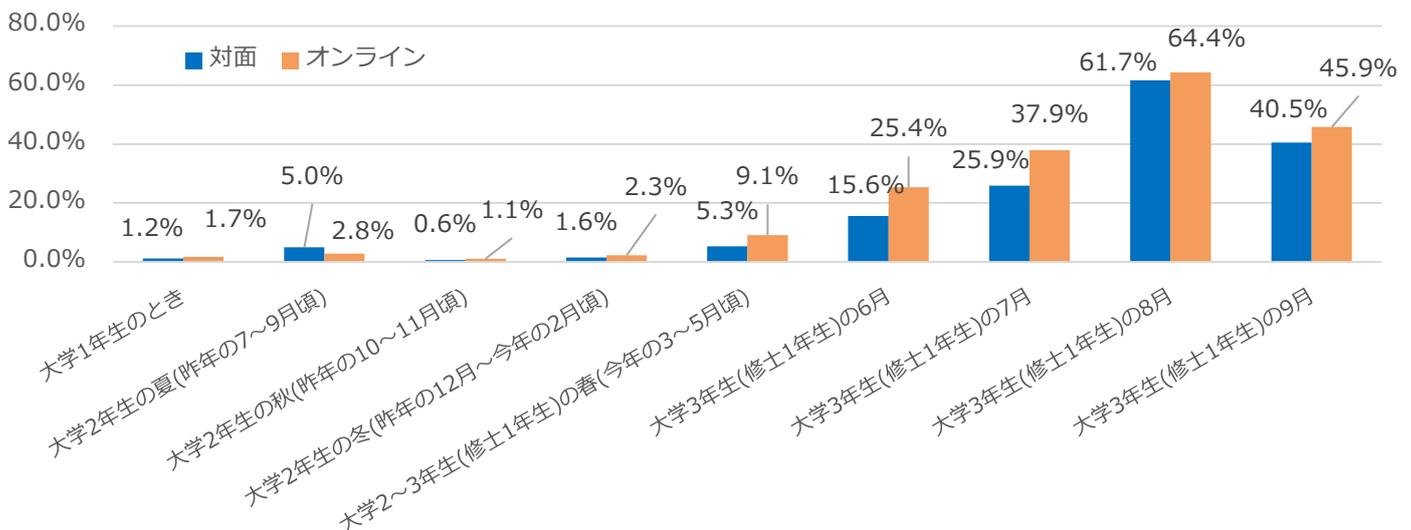
Q. 【オンライン形式】のインターンシップ等の参加社数を教えてください。

n=355



Q. 【対面】【オンライン】それぞれのインターンシップ等に参加した時期はいつですか？
(複数回答可)

n=321(対面)、n=351(オンライン)



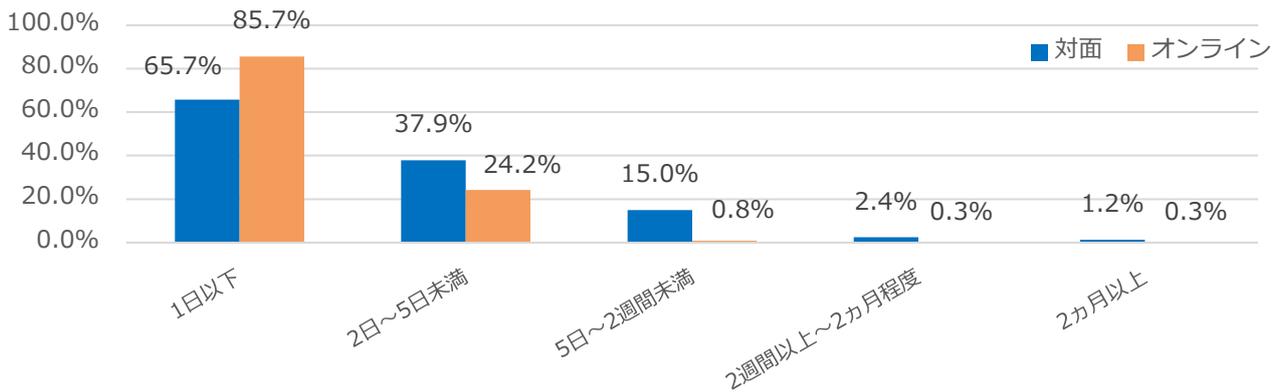
インターンシップ等の参加社数を形式別で見ると、【対面形式】は概算平均で3.4社。昨年同時期の2.6社を0.8社上回った。【オンライン形式】は概算平均4.7社。同4.2社を0.5社上回ったが、【対面形式】のほうが参加社数の伸びは大きい。調査時期が1ヵ月弱異なるため一概には言えないが、P5で示した通り、昨年度と比べインターンシップ等の参加率は微減である一方、1人当たりの参加社数は増加している。

参加時期は対面、オンラインともに「大学3年生(修士1年生)の8月」が最多であった。

Ⅱ インターンシップ、オープン・カンパニーについて

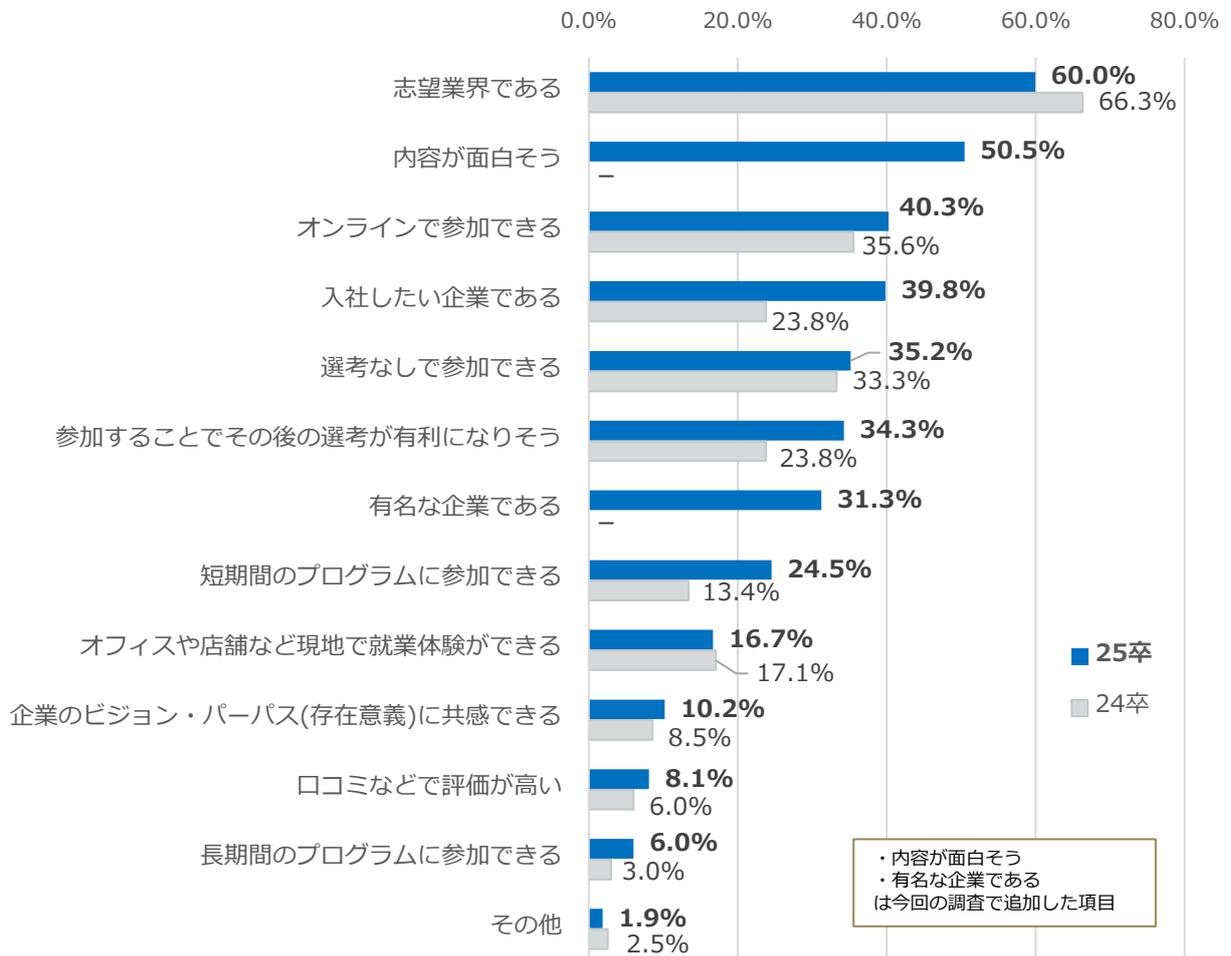
Q. 【対面】【オンライン】それぞれのプログラムの参加日数は、1社あたりどの程度でしたか？
 (複数回答可)

n=327(対面)、n=356(オンライン)



Q. 応募したインターンシップ等はどのような基準で選びましたか？ (複数回答可)

n=435



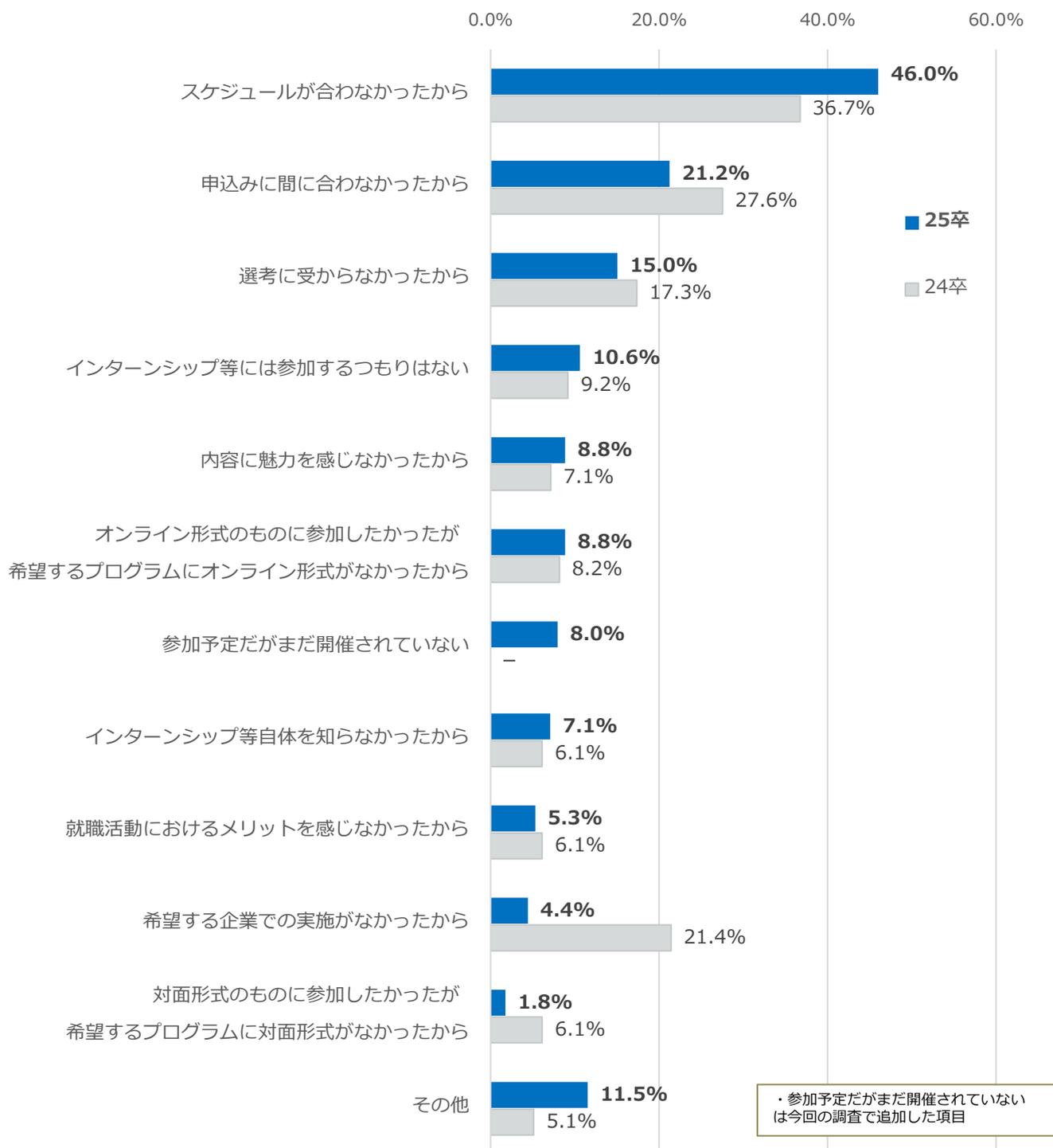
インターンシップ等の参加日数は対面、オンラインともに「1日以下」が最多で、例年通り主流は単日開催（オープン・カンパニー）である。一方、対面形式では15%以上の学生が、三省合意によって明示された、参加者情報を採用活動に活用するための条件の一つである「5日間以上」のものに参加。それに対し、オンライン形式で「5日間以上」のものに参加した学生はほとんどいなかった。

応募するインターンシップ等を選んだ基準は「志望業界である」が60.0%で最多。「入社したい企業である」（昨年23.8%→今年39.8%）、「参加することでその後の選考が有利になりそう」（昨年23.8%→今年34.3%）は昨年と比べ大きく伸び、その先の就職活動を意識して応募企業を選ぶ傾向もみられる。

II インターンシップ、オープン・カンパニーについて

Q. インターンシップ等に参加していない理由は何ですか？（複数回答可）
（インターンシップ等に参加していない学生への質問）

n=113



インターンシップ等に参加していない学生に不参加の理由を聞いたところ、最多は「スケジュールが合わなかったから」（46.0%）であった。「申込みに間に合わなかったから」（21.2%）、「選考に受からなかったから」（15.0%）と続く。11.5%に上る「その他」の内訳をみると、「研究で忙しかった」「部活を優先した」など学業や課外活動を理由として挙げる学生が目立った。1位の「スケジュールが合わなかったから」とも関連するが、行動制限の緩和によって学生生活における取り組みの選択肢が広がり、インターンシップ等の優先順位を落とす学生も一定数いたとみられる。

II インターンシップ、オープン・カンパニーについて

Q. インターンシップ（就業体験のある5日間以上のもの）に参加していかがでしたか？

n=62

期待通りのものは
得られなかった

9.7%

期待通りだった

22.6%

期待以上の
ものが得られた

67.7%

選択理由（一部抜粋）

■ 期待以上のものが得られた

- ・実際に5日間出社して先輩社員と業務を進めたからこそ、業務内容の理解に繋がり、オフィスの雰囲気にも慣れることができた。出社型の5日間以上のプログラムは、オンラインでは得られないことが得られると実感した。
- ・交流できる期間が長かったことで、人事の方や他の参加学生と打ち解け合う仲にまで関係を築くことができたため。
- ・社員の方が普段行っている仕事を本格的に体感することができ、業務の面白さや大変さを実感できたため。
- ・5日間はとても長いのではと思っていたが、いざ参加したら意外と短く、1日や2日間のものよりも一つ一つのプログラムを深掘りして行うことができ充実したため。
- ・インターネットで調べていた雰囲気と実際の雰囲気が全く違った。また他のインターン生との交流も新鮮で新たな視野を持てた。

■ 期待通りだった

- ・知りたいと思っていた情報を知ることができたから。
- ・周囲の人々と協力することを学べたため。

■ 期待通りのものは得られなかった

- ・仕事内容が想像していたものと異なっており、大きなギャップを感じてしまったため。
- ・今後の就職活動に役立つインターンシップもあったが、無給のアルバイトのような扱いを受けたものもあったため。

Q. オープン・カンパニー（1日～5日未満の短期開催のもの）に参加していかがでしたか？

n=383

期待通りのものは
得られなかった

2.3%

期待通りだった

51.7%

期待以上の
ものが得られた

46.0%

選択理由（一部抜粋）

■ 期待以上のものが得られた

- ・インターネットではわからない、社員の方々の雰囲気や人柄の良さを知ることができたため。
- ・プチ業務体験ができる企業が多く、何となく各企業がどんな仕事をしているのかを知ることができたため。
- ・社員との座談会などで本音のお話を聞けたため。
- ・社員の雰囲気や事業内容をサクッと知ることができたのが良かった。1週間以上のものに1回参加するよりも、1日のプログラムにいくつか参加した方が志望企業が定まっていなかった場合は良いと思った。

■ 期待通りだった

- ・やることは想像通りのワークだったけど、いろいろな人に出会えたから。
- ・知らなかった業務内容や職場の雰囲気について大まかに知ることができたから。
- ・オンラインではあったが企業担当者の雰囲気などから自分に合うかどうかを判断する材料の1つが得られたため。
- ・欲しかった情報は概ねインプットできたため。一方で、回数が増えるに連れて既に知っている初心者向けの情報を繰り返し聞くことも多くなり、次第に満足度が下がりつつある。

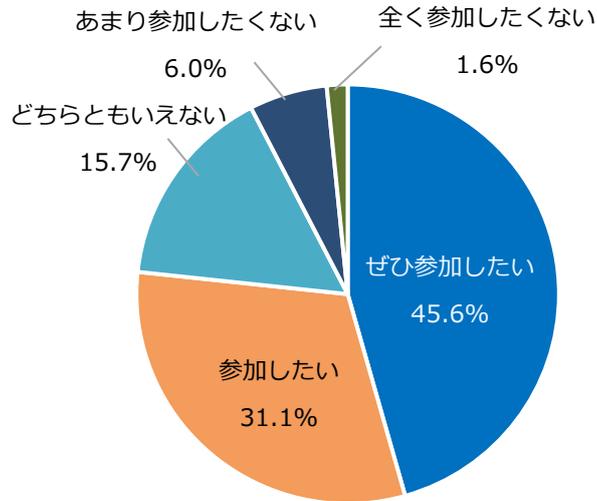
■ 期待通りのものは得られなかった

- ・特に有益な情報を得られなかったため。
- ・質疑応答の時間が短かったため。

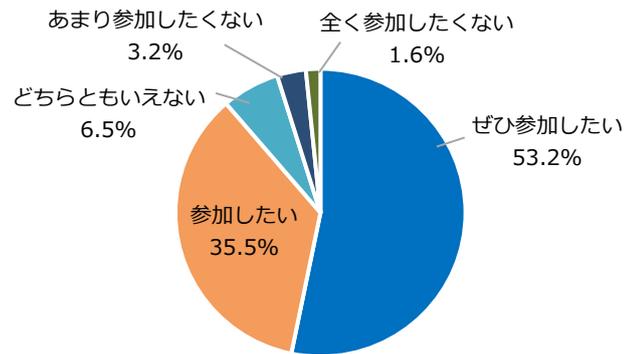
インターンシップ（就業体験のある5日間以上のもの）とオープン・カンパニー（1日～5日未満の短期開催のもの）に参加した感触として、「期待以上のものが得られた」という学生はオープン・カンパニーでは46.0%。一方インターンシップはそれを21.7ポイント上回る67.7%に達した。ある程度の日数をかけたからこそ、企業や仕事に対する理解がより深まったほか、社員や参加学生同士の交流機会も多く持つことができ、高い充実度に繋がったようだ。

II インターンシップ、オープン・カンパニーについて

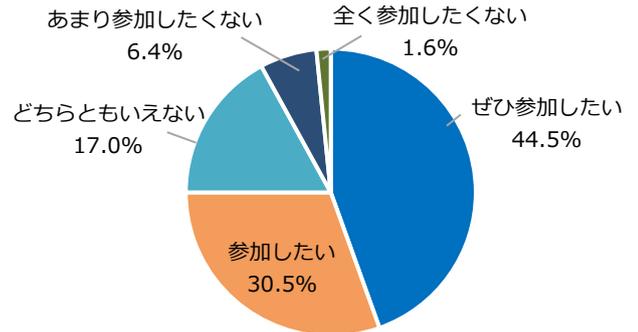
Q. インターンシップ（就業体験のある5日間以上のもの）に今後参加したいですか？ n=502



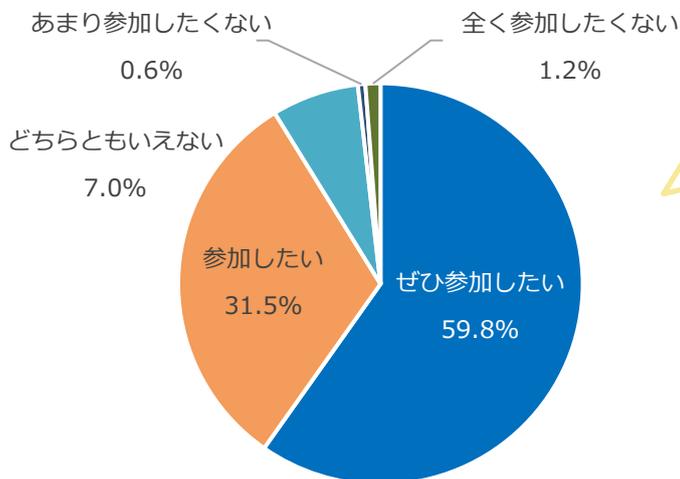
インターンシップ参加経験【あり】の学生



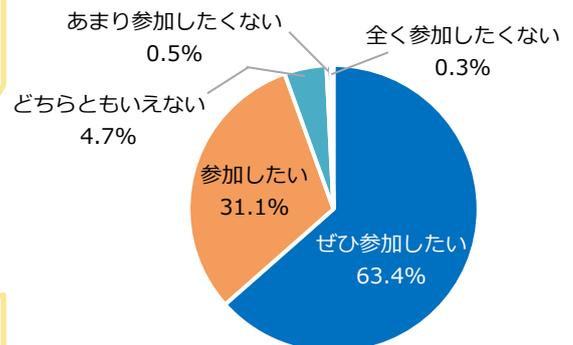
インターンシップ参加経験【なし】の学生



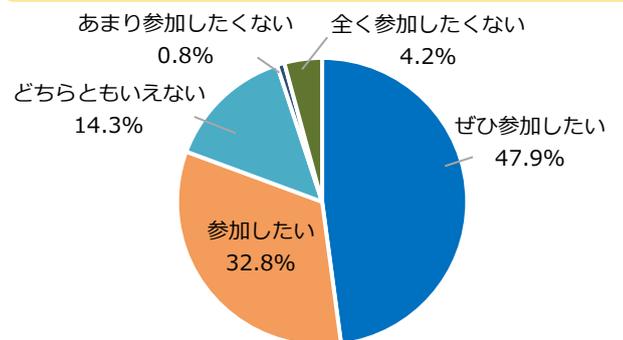
Q. オープン・カンパニー（1日～5日未満の短期開催のもの）に今後参加したいですか？ n=502



オープン・カンパニー参加経験【あり】の学生



オープン・カンパニー参加経験【なし】の学生

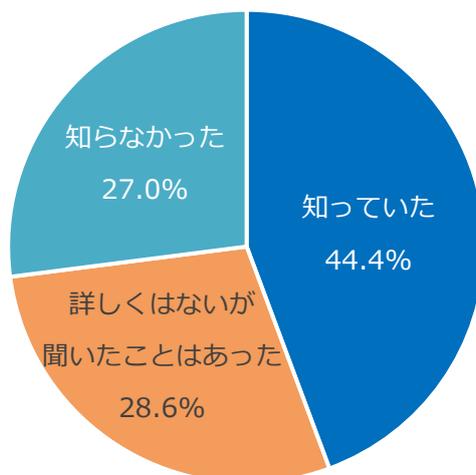


インターンシップとオープン・カンパニーについて「今後参加したいか」を聞いたところ、参加希望率（「ぜひ参加したい」+「参加したい」の合計）はインターンシップ=76.7%、オープン・カンパニー=91.3%であった。いずれも参加希望者が多数を占めるが、短期間で気軽に参加できるオープン・カンパニーを好む傾向がみられた。それぞれについて参加経験の有無別で比べたところ、参加経験の【ある】学生のほうが【ない】学生よりも参加希望率が高くなる傾向がみられ、1度でも参加した経験が「別の企業も知りたい」といった意欲を喚起させているようだ。

II インターンシップ、オープン・カンパニーについて

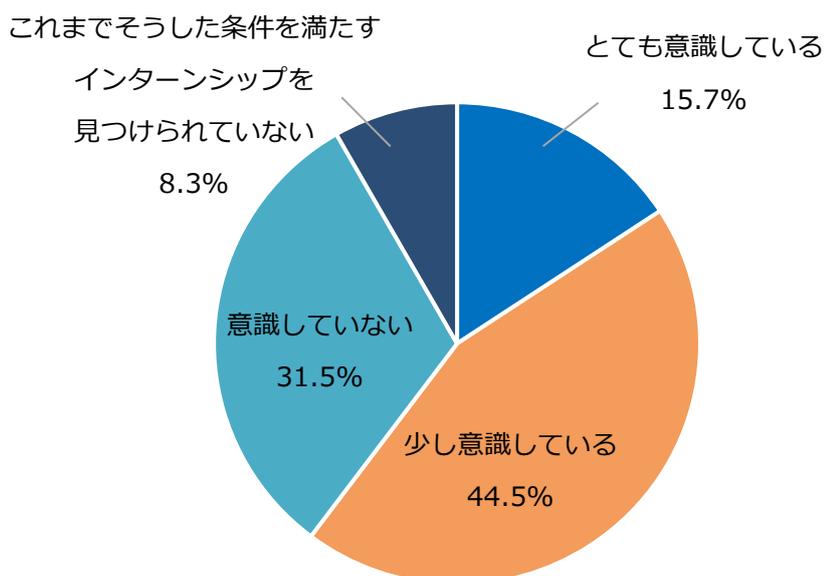
Q. 今年度のインターンシップより、「5日間以上」「半分を超える日程で職場体験を導入」などの条件を満たせば、企業はインターンシップ参加学生の情報を採用活動に活用できることになりました。このことを知っていましたか？

n=514



Q. 参加するインターンシップを探す際、「5日間以上」「半分を超える日程で職場体験を導入」などの条件を満たすかどうかをどの程度意識していますか？
(上記の質問で「知っていた」「詳しくはないが聞いたことはあった」と回答した学生への質問)

n=375



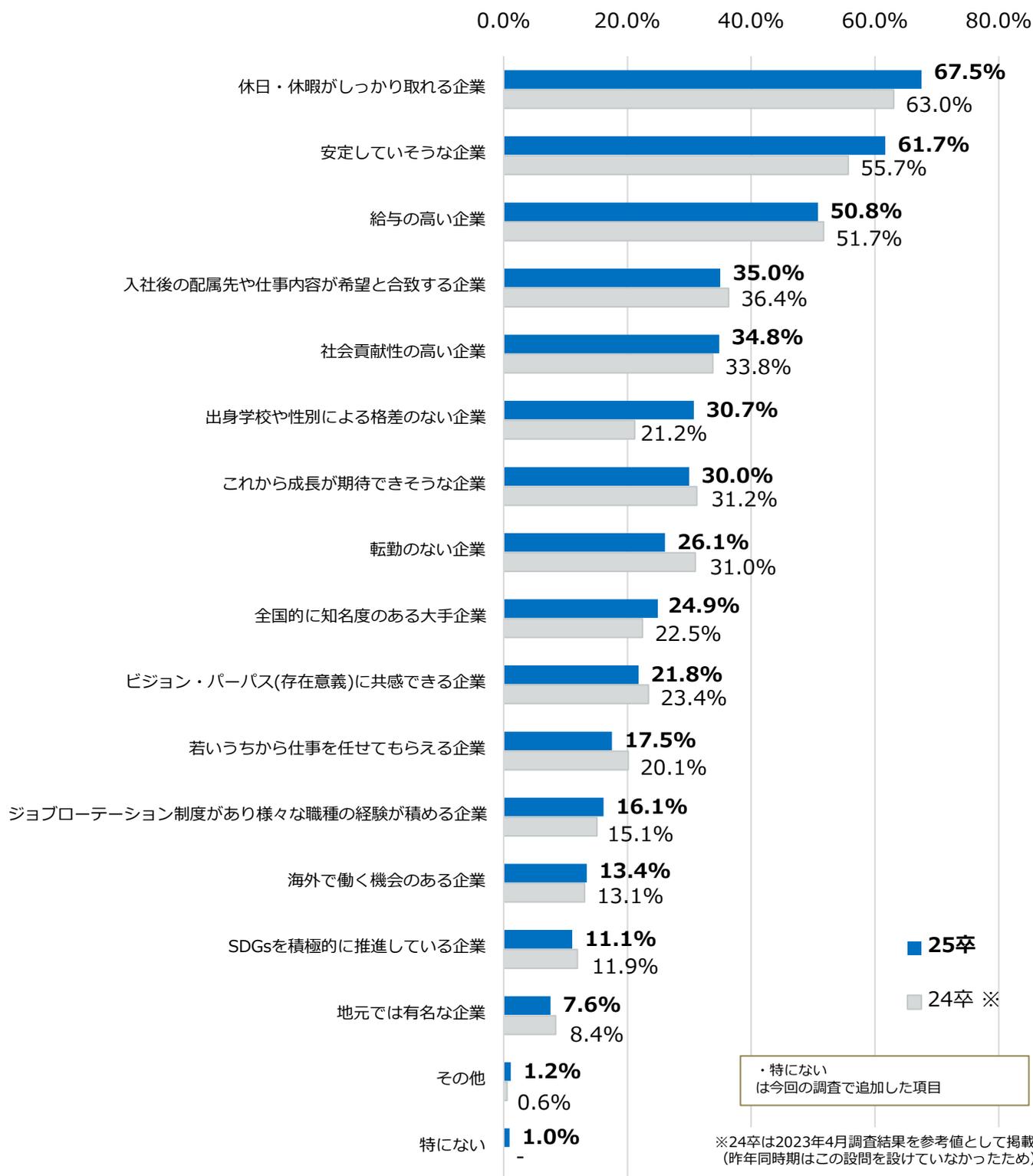
2025年卒学生対象のインターンシップより、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の三省合意によって「5日間以上」「半分を超える日程で職場体験を導入」などの条件を満たせば、企業は参加学生の情報を採用活動に活用できることとなった。このことに対する認知度について質問したところ、「知っていた」は44.4%と半数弱に及んだ。「詳しくはないが聞いたことはあった」(28.6%)も合わせると、程度の差はあるものの、およそ4人に3人に対しこのルールが浸透しているようだ。

また参加するインターンシップを探す際に、こうした条件を満たすかをどの程度意識しているか聞いたところ、「とても意識している」が15.7%、「少し意識している」が44.5%と、合わせて約6割が意識していることがうかがえる。P7で示した通り、結果的に5日間以上のインターンシップに参加した学生は多いとは言えないが、少なくとも探す段階では「5日間以上」などの条件を意識している学生が多いようだ。

Ⅲ 就職活動全般に対する考えについて

Q. 就職先として選ぶ場合、どのような企業に魅力を感じますか？（複数回答可）

n=514

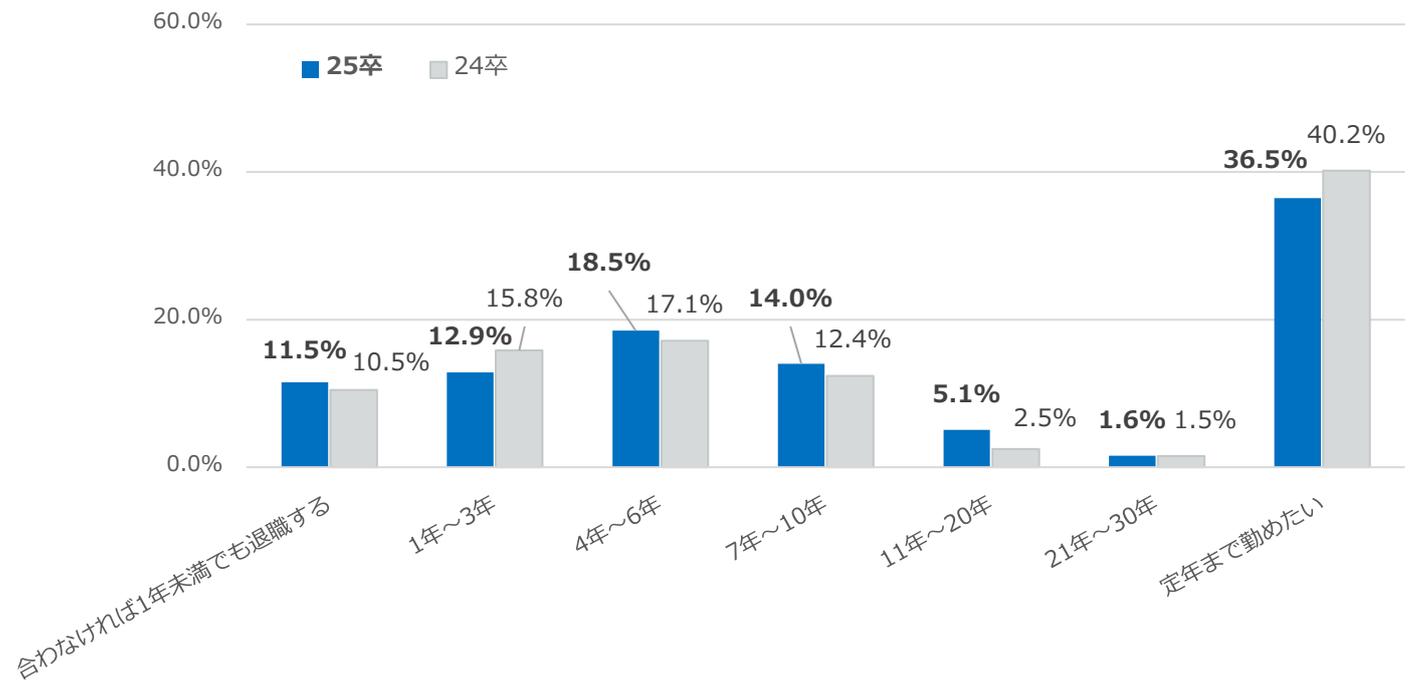


就職先として選ぶ場合に魅力を感じる企業として、1位は「休日・休暇がしっかり取れる企業」（67.5%）が挙げられた。「安定していそうな企業」（61.7%）、「給与の高い企業」（50.8%）と続く。昨年同時期の調査ではないが、上位5つは2024年卒学生対象の同質問でも同じ順位であった。2024年卒学生への調査実施時期は就職活動本番といえる4月であり、就職活動真ただ中の学生とインターンシップ等が活動の中心の学生とで、就職したい企業の条件に大きな違いはないといえそうだ。

Ⅲ 就職活動全般に対する考えについて

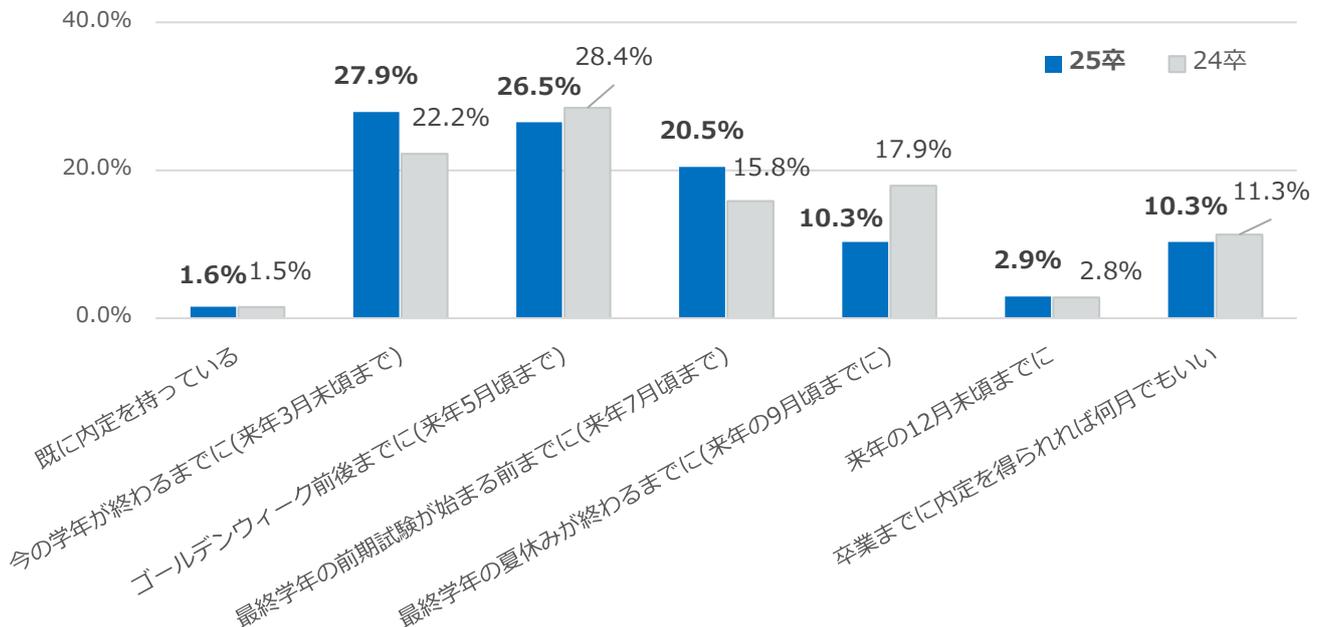
Q. 就職先が決まった際、入社した企業でどの程度勤務を続けたいですか？

n=513



Q. いつ頃までに内定を得たいですか？

n=513

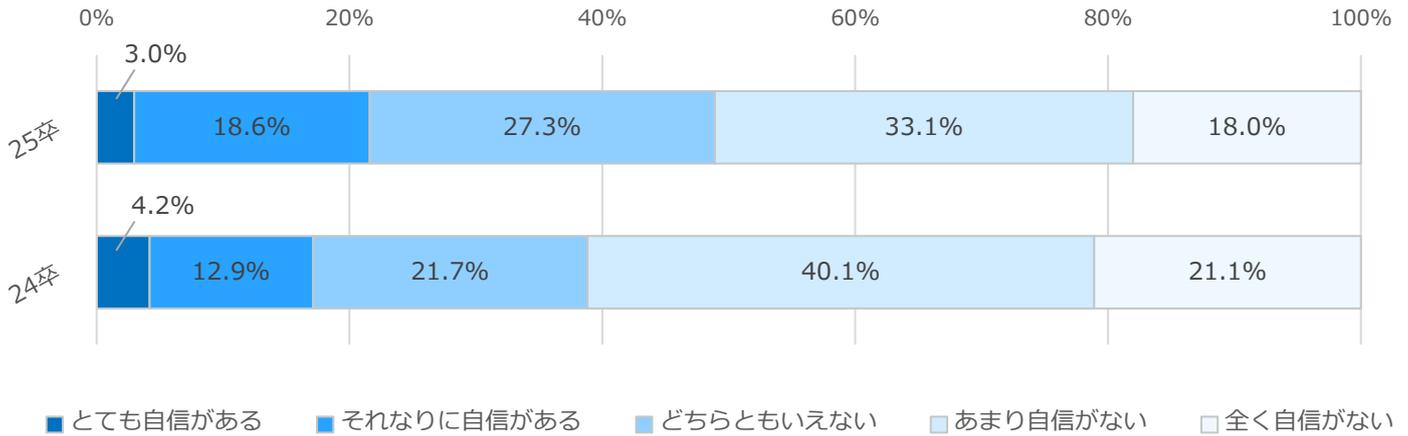


入社した企業でどの程度勤務したいかについては、「定年まで勤めたい」が昨年同時期を3.7ポイント下回ったものの36.5%で最多に。「4年～6年」(18.5%)、「7年～10年」(14.0%)と続き、概ね5年～10年ほど働いてスキルを磨き、セカンドキャリアを目指そうという学生が「定年まで勤めたい」に次ぐボリュームゾーンであるようだ。内定を得たい時期は「今の学年が終わるまで(来年3月末頃まで)」が27.9%で最多となり、昨年最多の「ゴールデンウィーク前後までに(来年5月頃まで)」を上回った。早期選考などを念頭に、最終学年に進級する前に内定を得たい、得られるのではと期待を寄せる学生が増えていると考えられる。

Ⅲ 就職活動全般に対する考えについて

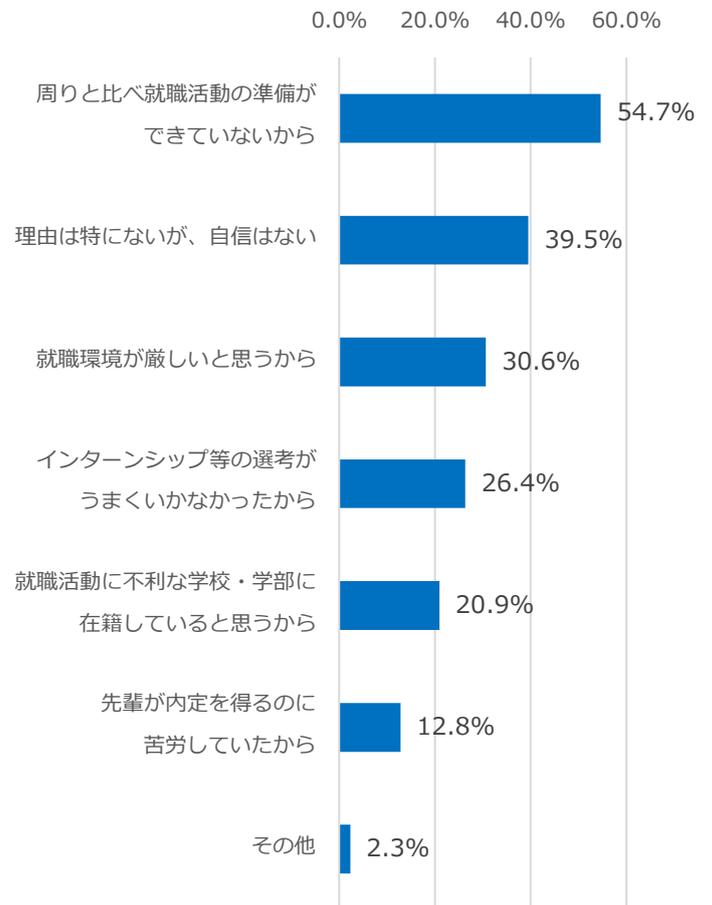
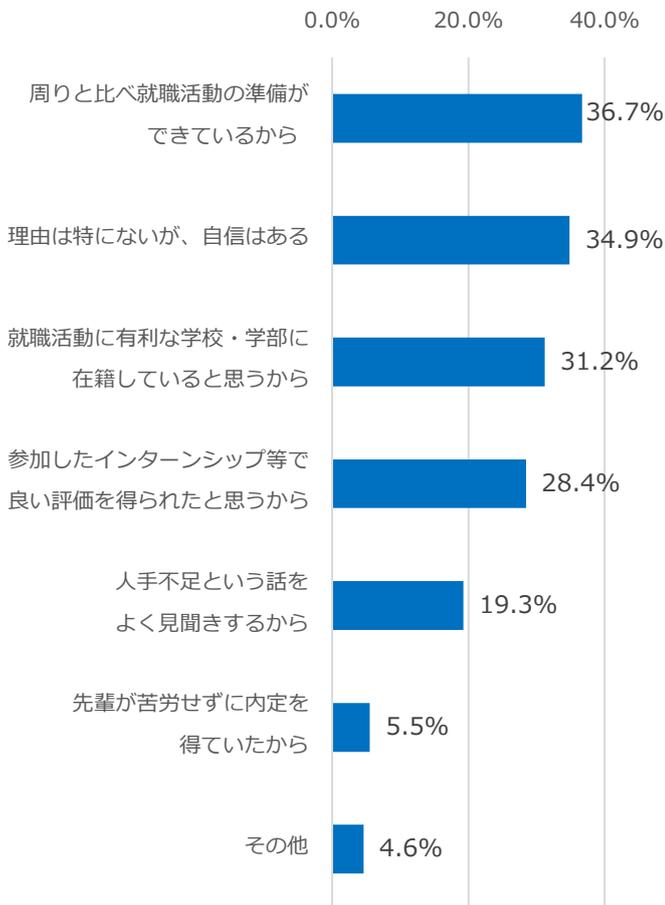
Q. 就職活動開始後、内定を獲得する自信の程度を教えてください。

n=505



Q. 「とても自信がある」「それなりに自信がある」理由は何ですか？（複数回答可）

Q. 「あまり自信がない」「全く自信がない」理由は何ですか？（複数回答可）



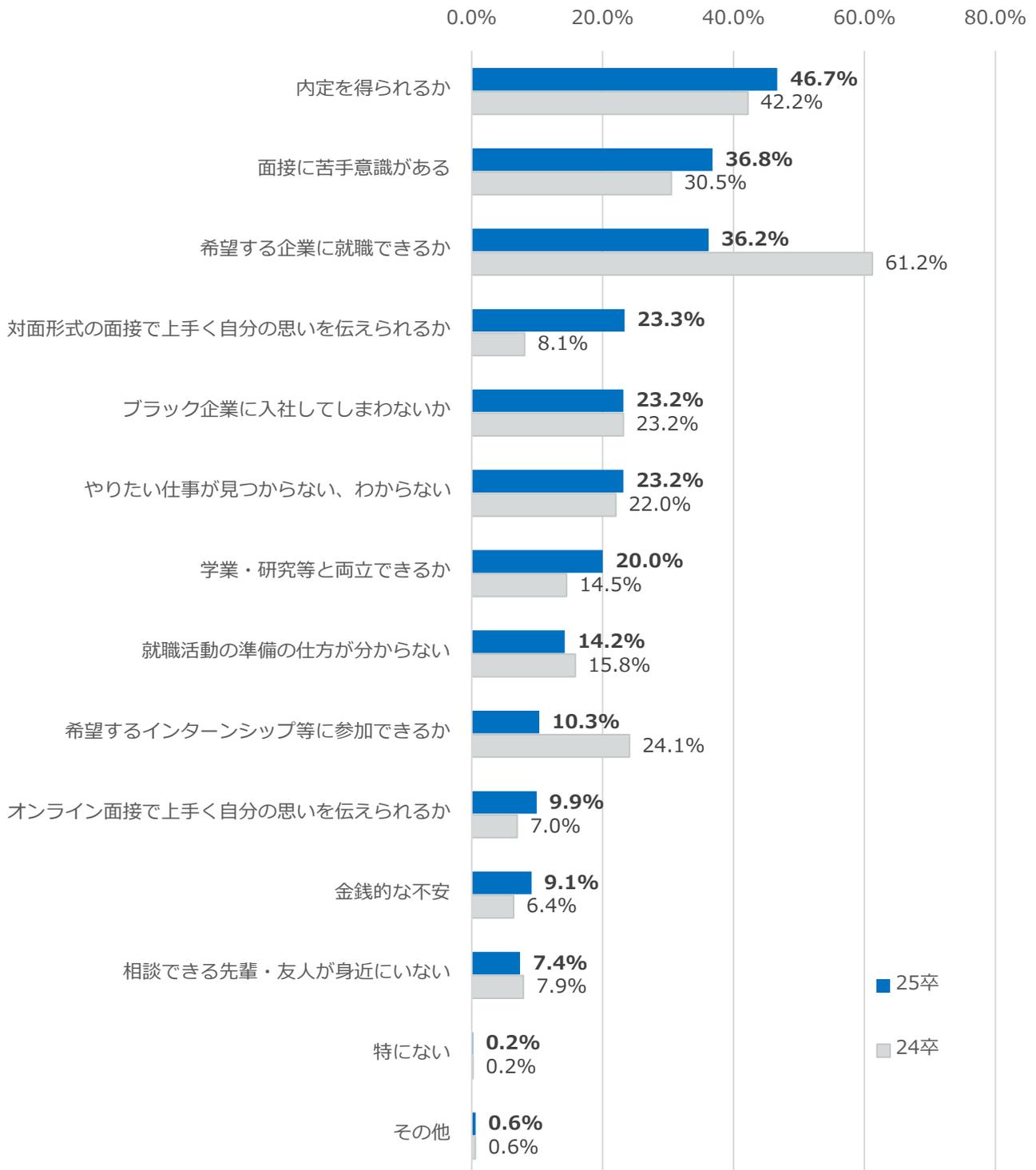
内定を獲得する自信の程度は、例年同様「自信がある」よりも「自信がない」が上回っているが、昨年と比べ「自信がある」の割合が増加し「自信がない」は減少。

自信がある理由は「周りとは比べ就職活動の準備ができているから」（36.7%）が最多。インターンシップ等への参加を含め、早期から企業と接するなど具体的な行動の機会が学生の自信を引き出しているといえそうだ。一方で、自信がない理由の最多は、それとは逆に「周りとは比べ就職活動の準備ができていないから」（54.7%）であった。

Ⅲ 就職活動全般に対する考えについて

Q. インターンシップ等や就職活動について、現時点で不安なことは何ですか？（3つまで選択）

n=514



インターンシップ等や就職活動に関する不安の1位は「内定を得られるか」（46.7%）が挙げられた。昨年1位だった「希望する企業に就職できるか」は昨年の61.2%から36.2%へと大幅に減少。替わって上昇がみられたのが面接に関するものだ。「面接に苦手意識がある」は昨年同時期比6.3ポイント増の36.8%で2位に、「対面形式の面接で上手く自分の思いを伝えられるか」は同15.2ポイント増の23.3%で4位に挙げられた。インターンシップ等に参加した企業から早期選考の案内を受けるケースを想定し、そこで待ち受けるであろう「面接」に早くも不安を感じているとみられる。

GAKUJO REPORT

あさがくナビ

朝日学情ナビ 2025

2025年卒学生対象 就職活動意識調査レポート

2023年10月発表

弊社「新卒採用サービス」等に関するご案内・お問い合わせはこちら



「新卒採用サービス」ご案内ページ
< <https://service.gakujo.ne.jp/newgraduate> >



「調査レポート」バックナンバー
< <https://service.gakujo.ne.jp/documents> >

つくるのは、未来の選択肢

学情
GAKUJO
東証プライム上場



- | | | |
|----------|--|------------------------|
| ■本 社 | 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル7階 | TEL (03) 3593-1500 (代) |
| ■大 阪 本 社 | 〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-10 学情梅田コンパス | TEL (06) 6346-6833 (直) |
| ■名古屋支社 | 〒460-0008 名古屋市中区栄2-3-6 NBF名古屋広小路ビル8階 | TEL (052) 265-8121 (代) |
| ■京 都 支 社 | 〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町8 京都三井ビルディング3階 | TEL (075) 213-5611 (代) |
| ■福 岡 支 社 | 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビル8階 | TEL (092) 477-9190 (代) |

株式会社学情は、東証プライム上場・経団連加盟企業であり、法人株主として朝日新聞社・大手金融機関が出資し、10,000社以上の優良企業と取引する大手総合就職・転職情報会社です。会員数200万人の「20代向け転職サイト5年連続No.1 (Re就活)」(※2019年～2023年 東京商工リサーチ調査 20代向け転職サイト 第1位)をはじめ、会員数40万人の「学生満足度2年連続No.1 (あさがくナビ(朝日学情ナビ))」(※2022年～2023年 オリコン顧客満足度(R)調査 逆求人型就活サービス 就活支援コンテンツ 第1位)や、「新卒学生対象・合同企業セミナー来場数No.1 (就職博)」(※2023年 東京商工リサーチ調査 新卒学生対象・合同企業セミナー 第1位)を運営しています。